

3. 授業研究

(1) 目標

ものごととのかかわりや仲間作りを通して、豊かに表現できる子どもを育てる。

(2) 努力点

- ・「コミュニケーション力」と「表現力」をつけるための手立てや工夫についての話し合い
- ・教師の力量を高めるための学習会 ・学年と授業研究部との教材研究

(3) 「めざす子ども像」と育てたい力

本年度の「めざす子ども像」を『ものごととのかかわりや仲間とのコミュニケーションを通して、豊かに表現できる子ども』と設定し、次の2つの力を発達段階に応じた系統性をもって追求していくことにする。また、昨年度の各学年の子どもたちの実態や今までの実践をもとに、つけたい力や具体的な支援を下記のようにして取り組むことにする。

① 発達段階における『コミュニケーション力』と『表現力』の系統性

	コミュニケーション力	表現力
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや返事をきちんとする。 ・相手の気持ちになって、友達の話聞く。 ・身近な人々のよさに気づき、進んでかかわろうとする。 ・みんなでルールを守り、助け合って活動する。 ・相手にわかってもらえるように、思いや考えを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなに聞こえる声で話す。 ・順序よく伝える。 ・わかったことを学習に生かそうとする。 ・楽しかったことや思ったことをかくことができる。 ・いろいろな伝え方の方法(話す・動作化・かく)を知る。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を受けて、自分の思っていることを話す。 ・友達やかかわる人のよさを見つける。 ・聞き手に分かりやすく発表する。 (表・写真・実物などを使って) ・地域の人々や自然のよさに気づき、進んでかかわろうとする。 ・相手の立場を考える。 ・グループで意見をまとめ、協力して活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを進んでいろいろな方法で伝える。 ・わかったことを自分なりに工夫し、学習に生かそうとする。 ・学習したことや考えたことを記録し、次時の活動に生かす。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・声の調子や表情を工夫して、場にふさわしい言葉を考えて話す。 ・聞き手に分かりやすく工夫して発表する。 (表・グラフ・クイズ・カードなどを使って) ・自分の取り巻く人、社会、自然のよさに気づき、進んでかかわろうとする。 ・お互いのよさを生かし、高め合いながら活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の願いや見方を、時や場に応じて工夫して伝える。 ・自分の学びを、生活や生き方に生かす。 ・ポートフォリオをもとに、学習を振り返り、次時に生かす。
全学年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識や考えを使えるようにする。 ・みんなに聞こえる声で話す。 ・語彙数を増やす。 ・習った漢字を使えるようにする。 ・詩の暗唱等に取り組み言葉の力をつける。 	

②『コミュニケーションカ』を育成するための支援

ものごととのかかわりや仲間とのコミュニケーションは、問題解決学習を行っていく上でとても重要である。コミュニケーションカが培われていけば、子どもの意欲が高まり豊かな表現力も身につくと考えられ、次のような発達段階に応じた支援を行っていきたいと考える。

低学年	<ul style="list-style-type: none">・人とかかわる場での挨拶の仕方や声のかけ方をアドバイスする。・自分の思いや考えの表現方法を具体的に示し、伝える機会や場を設けるようにする。・様々な活動をポートフォリオにして残すようにする。
中学年	<ul style="list-style-type: none">・相手の考えを受け止め、そのよさに気づいたり、進んで話しかけたりする機会や場を設けるようにする。・相手によりわかりやすく伝える方法として、写真や実物や表などの具体例を示す。・ポートフォリオで、学習の流れをわかりやすくする。
高学年	<ul style="list-style-type: none">・自分の課題を意識し、かかわるすべての人やものよさに気づき、進んでかかわろうとするように声かけやアドバイスを行うようにする。・ポートフォリオで学習の足跡を残し、次時に生かしていけるようにアドバイスする。

③『表現力』を育成するための支援

子どもが、自分の思いや考えを持ち、自分の価値観から判断し、「学習対象」や「なかま」とよりよくかかわる(響きあう)わたしをめざそうとしている。そこで、子どもたちが表現力を身につけるために、次のような支援を行っていきたいと考える。

<p>◇各教科等の授業の場ではもちろん、朝の会や帰りの会・学級活動等で、一人ひとりができるだけ自己表現できる機会を設けるようにする。</p> <p>◇様々な表現方法を知らせ、相手に伝えてわかってもらえる楽しさを体験させるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none">・話す相手を考え、その場に応じた話の仕方・自分の思いや考えがわかる文の書き方・様々な伝達の方法(絵・表・グラフ・紙芝居・ポスター・劇・パソコン・パンフレット等) <p>◇一人ひとりの表現を認め合える学級・グループを作るために、お互いの考えを受け入れ、修正し合ったり、譲り合ったりする心をもたせるようにする。</p> <p>◇話している人の考えを最後までしっかり聞くことはもちろん、自分の考えと比べながら聞くようにさせる。</p> <p>◇自己評価できる場をもち、その後の学習や意欲につながられるようにする。(仲間や指導者のアドバイス)</p> <p>◇子どもの実態に応じた教材を用意し、興味や関心が広がるように工夫する。</p> <p>◇自分を取り巻く人たちとのかかわりを多くもたせ、様々な体験活動を取り入れる。</p>

※本年度は、2つの力を高めるために、様々な学習の場で「かく」ことを重要視していきたいと考える。

(4)学習の評価

- ・単元計画が、子どもの実態に適切であったか見直す。
- ・「コミュニケーションカ」と「表現力」の到達度をチェックする。
- ・自己評価(学習カードなど)をうまく活用できたか見直す。